

平成18年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

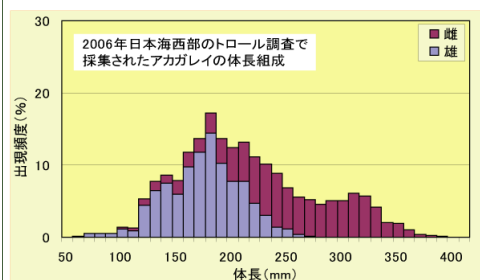
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 不明
成熟開始年齢： 詳細は不明であるが、50%成熟体長は雌27cm、雄17cm
産卵期・産卵場： 2～4月に水深180～200mで産卵、主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場： 周年、分布域全体(水深150～700m)
食性： クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者： 不明

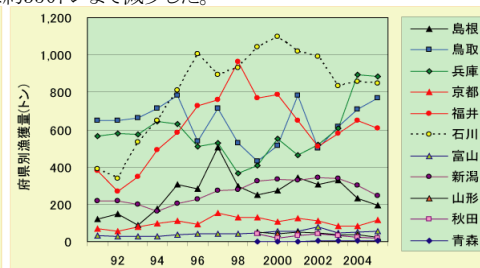
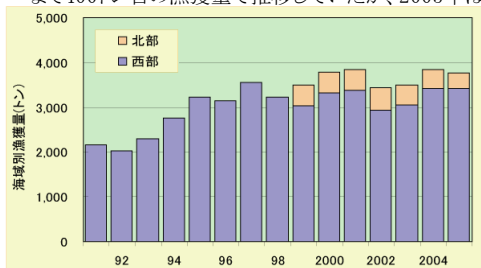


漁業の特徴

アカガレイは日本海および東北地方太平洋沿岸～北海道に生息し、底びき網漁業や刺網漁業などの漁獲対象となっている。日本海においては水深150～700mに分布し、沖合底びき網漁業および小型底びき網漁業の主対象種となっている。

漁獲の動向

日本海西部(石川県～島根県)では、1995年以降3,000トンを超える漁獲量で推移している。2004年と2005年は3,400トンを超え、過去15年間の中では高いレベルを維持している。一方、日本海北部(青森県～富山県)では、これまで400トン台の漁獲量で推移していたが、2005年は約350トンまで減少した。



資源評価法

沖合底びき網の海域別資源密度指数、トロールによる採集調査結果および若齢魚の加入状況から資源水準と動向を把握した。さらに、沖合底びき網の有効漁獲努力量の推移から現在の漁獲圧を検討した。

資源状態

西部の沖合底びき網資源密度指数を海域別に見ると、卓越年級が着底した但馬、若狭を中心に指数が近年増加していた。卓越の存在しない加賀、浜田では、指数は若干増加または横ばいとなっていた。2006年着底トロール調査結果を見ると、雌産卵親魚量及びこれから産卵親魚となる雌の量は前年より増加していた。また、成育場における幼魚の着底状況も良好であった。このように西部の資源状態は良好であるが、未だ1980年代のレベルには達していない。北部の資源状態の悪化は懸念されるが、海域全体に占める漁獲の割合も低いことから、日本海全体の資源状態は中位、動向は増加傾向と判断した。



管理方策

日本海西部では卓越年級群が漁獲され始めたが、雌は成熟までさらに数年を要することから、漁獲圧を現状以上に上げず、特に雌未成魚を保護することが、資源を増やすうえで重要である。また、卓越年級以外の年級群の加入や現在の産卵親魚量も悪い状態ではなく、漁獲努力量も減少傾向であることから、2005年漁獲量をABClimitとし、さらにその9割をABCtargetとした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3,800トン	C2005	-	-
ABCtarget	3,400トン	0.9C2005	-	-

資源評価のまとめ

- 卓越年級群が漁獲され始めた

- 現在の雌産卵親魚量とこれから産卵親魚となる雌の量は増加傾向
- 成育場である加賀沖における加入状況も悪くない

管理方策のまとめ

- 管理目標は漁獲圧を現状以上にしないこと
- 加賀・若狭海域の禁漁区が成果をあげていると考えられることから、本種の生物特性にあった資源管理・保護を行うことは重要
- 卓越年級群の雌も漁獲され始めたが、産卵までさらに数年を要することから、雌未成魚を守ることが資源を増やすうえで重要である

資源評価は毎年更新されます。